

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-309200

(43)公開日 平成5年(1993)11月22日

(51)Int.Cl⁵

識別記号

庁内整理番号

FI

技術表示箇所

D 0 6 F 81/00

審査請求 未請求 請求項の数1(全 4 頁)

(21)出願番号 特願平4-117429

(22)出願日 平成4年(1992)5月11日

(71)出願人 000001889

三洋電機株式会社

大阪府守口市京阪本通2丁目18番地

(71)出願人 000214892

鳥取三洋電機株式会社

鳥取県鳥取市南吉方3丁目201番地

(72)発明者 中尾 喜代志

鳥取県鳥取市南吉方3丁目201番地 鳥取

三洋電機株式会社内

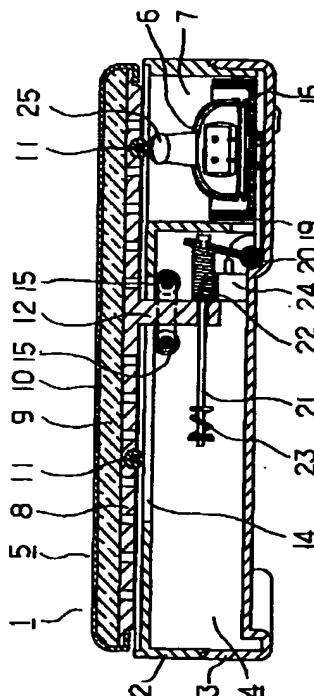
(74)代理人 弁理士 西野 卓嗣

(54)【発明の名称】 アイロン装置

(57)【要約】

【目的】 本発明は、アイロンとアイロン掛け台から成るアイロン装置における作業性、収納性を改善することを目的とする。

【構成】 本発明は、アイロン6とアイロン掛け台1から成るアイロン装置において、前記アイロン掛け台1は、衣類を載置する衣類載置部5と、前記アイロン6を収納するアイロン収納部7とを備え、前記衣類載置部5は前記アイロン6を収納した前記アイロン収納部7を覆う位置に移動自在な構成としたものである。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 アイロンとアイロン掛け台から成るアイロン装置において、前記アイロン掛け台は、衣類を載置する衣類載置部と、前記アイロンを収納するアイロン収納部とを備え、前記衣類載置部は前記アイロンを収納した前記アイロン収納部を覆う位置に移動自在としたことを特徴とするアイロン装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明はアイロン掛け台にアイロンを収納することができるアイロン装置に関する。

【0002】

【従来の技術】従来のアイロン掛け台は、例えば実開昭57-7500号公報に示されているように、衣類を載置するための載置部に隣接して引出し自在のアイロン載置台を設け、アイロン掛けを行なわない場合にはアイロン載置台をアイロン掛け台内に収納することができるようになっている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】上記の構成によれば、アイロン掛けを行なわない場合にはアイロン載置台を収納することはできるが、アイロンは収納することができない。従って、アイロン掛けを行なう場合はアイロンとアイロン掛け台を別々に取り出して準備する必要がある、その作業がわずらわしいという問題があるとともに、アイロン掛けを終了した場合はアイロンとアイロン掛け台を別々に収納しなければならないので、その収納性が悪いという問題がある。

【0004】そこで本発明は上記の点を改善し、作業性、収納性の良いアイロン装置を提供することを課題とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明は、アイロンとアイロン掛け台から成るアイロン装置において、前記アイロン掛け台は、衣類を載置する衣類載置部と、前記アイロンを収納するアイロン収納部とを備え、前記衣類載置部は前記アイロンを収納した前記アイロン収納部を覆う位置に移動自在な構成としたものである。

【0006】

【作用】本発明は上記のように、アイロン掛け台にアイロンを収納するアイロン収納部を設けているので、アイロンをアイロン掛け台に収納して移動することができ、アイロン掛けの準備、あるいは後片づけを行なう場合の作業性を高めるとともに、アイロン掛けを行なわない期間の収納性も高める作用を奏する。さらに、衣類載置部をアイロン収納部の蓋として兼用することにより、アイロン掛け台の構造の簡素化を可能とする。

【0007】

【実施例】以下本発明の実施例を図面を参照して説明する。アイロン掛け台(1)は、上下のケース(2)

(3)で形成された本体(4)の上面に衣類載置部(5)を左右へ移動自在に設け、本体(4)の右側にアイロン(6)を収納する上面が開口したアイロン収納部(7)を設けて構成している。

【0008】衣類載置部(5)は複数の透孔を有する樹脂製の基台(8)の上にフェルト(9)を配置し、このフェルト(9)を耐熱性の布カバー(10)で覆った構成としている。基台(8)の下面には複数のコロ(11)(11)を回転自在に設けているとともに、その中央に位置して取付軸(12)を下方に垂下形成している。本体(4)の上ケース(2)には図2に示すように前記コロ(11)(11)のガイドとなるリブ(13)を上面周囲に形成しているとともに、前記取付軸(12)が挿入される左右横長の溝(14)を形成している。この溝(14)に挿入した取付軸(12)には、前記溝(14)の下方両脇に位置して複数の支持輪(15)(15)を回転自在に、しかも取付軸(12)を下方へ所定の力で付勢するように取り付けしている。

【0009】アイロン収納部(7)には、アイロン(6)を支持する耐熱性のアイロン載置台(16)を上下移動自在に収納しており、この載置台(16)にはアイロン(6)のベースを支持する耐熱性の支持部材(17)(17)と、アイロン(6)の受電部と接続する給電部(18)を設けている。本体(4)下ケース(3)には、L字状レバー(19)を支持点(20)を中心に回転自在に取り付けている。L字状レバー(19)の一端はアイロン載置台(16)の下面中央に遊びを有して連結されており、他端は前記取付軸(12)と連結された連結杆(21)と遊びを有して連結されている。前記連結杆(21)には、取付軸(12)とレバー(19)間に位置してそれらを離間する方向に付勢する第1のスプリング(22)と、取付軸(12)をアイロン収納部(7)側へ付勢する第2スプリング(23)とを取り付けている。また、本体(4)には、レバー(19)の回転動作によって入り切りされるスイッチ(24)を取り付けており、このスイッチ(24)は、アイロン載置台(16)が上位置に持ち上げられると前記給電部(18)に電源供給し、載置台(16)が下位置に降されると電源供給を遮断するようにしている。また、衣類載置部(5)と本体(4)の間には、左右へ移動自在の衣類載置部(5)を任意の位置に固定するためのロック装置(図示せず)を設けている。

【0010】上記の構成において、衣類載置部(5)を左方へ移動させると、載置部(5)は取付軸(12)が溝(14)に案内され、しかもコロ(11)(11)と支持輪(15)(15)の回転により本体(4)上をスムーズに移動する。そして取付軸(12)が第2スプリング(23)に当る位置まで移動させると、アイロン収納部(7)の上面が半分程度開口し、さらに左方へ移動させると全開する。この間、取付軸(12)が第2ス

3

リング(23)、連結杆(21)を介してレバー(19)の他端を反時計方向に回転させることにより、レバー(19)の一端が上方へ回転してアイロン載置台(16)を上方へ持ち上げる。そして、図3の状態では衣類載置部を固定することにより、アイロン載置台(16)上のアイロン(6)を収納部(7)の上面開口より露出状態で保持することができる。ここで、圧縮状態の第2スプリング(23)は、取付軸(12)とアイロン載置台(16)を結ぶ各部材間の遊びを吸収し、それらを安定させる作用を有する。

【0011】この時、スイッチ(24)はレバー(19)の回転によって作動状態となり、電源が給電部(18)に供給される。従って、アイロン(6)の受電部を給電部(18)に接続することにより、アイロン(6)への電源供給が行なわれ、ベースを所定温度に加熱させることができる。そしてアイロン(6)を衣類載置部(5)上に移動させることにより、その上の衣類のアイロン掛けを行なうことができる。

【0012】このように、衣類載置部(5)を左方へ移動させる動作によって、アイロン収納部(7)に収納されたアイロン(6)を衣類載置部(5)と隣接した適所に移動することができるので、アイロン掛けの準備が容易となる。

【0013】アイロン掛けを終了して、アイロン等を収納させる場合は、衣類載置部(5)のロックを解除させた後、アイロン(6)をアイロン載置台(16)上に載せた状態で衣類載置部(5)を右方向へ移動させると、取付軸(12)、第1スプリング(22)を介してレバー(19)が回転し、アイロン載置台(16)が下降する。その間、レバー(19)によってスイッチ(24)が切られ、給電部(18)への電源供給が遮断されるので、アイロン(6)が使用状態のまま載置されていたとしてもベース部の加熱を自動的に停止することができる。衣類載置部(5)をさらに右方へ移動させると、衣類載置部(5)がアイロン収納部(7)の上面開口を完全に覆い、アイロン載置台(16)上のアイロン(6)を収納部(7)内に完全に収納することができる。そして衣類載置部(5)をロック装置により図1に示す位置に固定することにより、極めて簡単な操作でアイロン

4

(6)をアイロン掛け台(1)内に一体的に収納することができる。ここで、第1スプリング(22)は、アイロン載置台(16)を収納部(7)の最下位置に保持するように、レバー(19)を付勢している。この状態で、アイロン(6)の上部に設けたハンドル(25)が衣類載置部(5)下部の基台(8)、好ましくはコロ(11)と当接状態で保持されるように設定し、アイロン掛け台(1)を移動する際のアイロン(6)のガタツキを防止する構成としている。

10 【0014】従って、アイロン掛けの準備、あるいはアイロン掛け終了後の後片づけを行なう場合に、アイロン(6)をアイロン掛け台(1)と一体的に移動させることができ、作業性を良好とすることができるとともに、アイロンとアイロン掛け台の収納スペースも少なくすることができる。

【0015】なお、衣類載置部(5)の移動は、手動により行うようにしても良いし、衣類載置部(5)を左右方向へ任意に移動させる電動式の移動装置を別途設けてこの装置により行うようにしても良い。

20 【0016】

【発明の効果】以上のように本発明は、アイロン掛け台にアイロンを収納するアイロン収納部を設けているので、アイロンをアイロン掛け台に収納して両者を一体的に移動することができるから、アイロン掛けの準備、あるいは後片づけを行なう場合の作業性を高めるとともに、非使用時の収納性を高めることができる。

【0017】さらに、衣類載置部をアイロン収納部の蓋として兼用可能としているので、アイロン掛け台の構造を簡素化することができる。

30 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施例を示す断面図である。

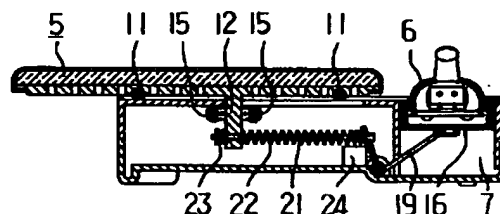
【図2】同実施例のアイロン掛け台の平面図である。

【図3】同実施例の使用状態を示す断面図である。

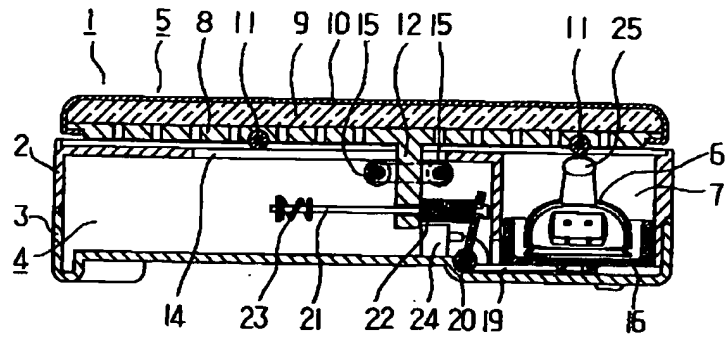
【符号の説明】

- 1 アイロン掛け台
- 5 衣類載置部
- 6 アイロン
- 7 アイロン収納部

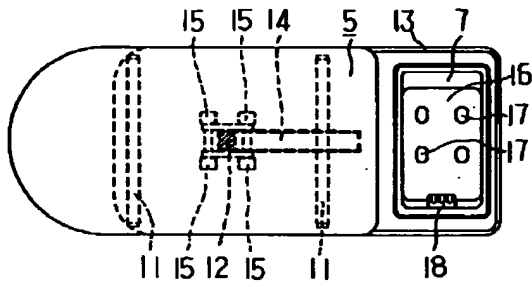
【図3】



【図1】



【図2】



\~15~

PAT-NO: JP405309200A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 05309200 A

TITLE: IRON DEVICE

PUBN-DATE: November 22, 1993

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

NAKAO, KIYOSHI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

SANYO ELECTRIC CO LTD

N/A

TOTTORI SANYO ELECTRIC CO LTD

N/A

APPL-NO: JP04117429

APPL-DATE: May 11, 1992

INT-CL (IPC): D06F081/00

US-CL-CURRENT: 38/96, 38/107

ABSTRACT:

PURPOSE: To improve the workability and a storage ability of an iron assembly composed of an iron and an ironing board.

CONSTITUTION: In an iron device composed of an iron 6 and an ironing board 1 incorporating a garment setting part 5 on which garments are stacked and an iron storage part 7 for storing the iron 6, the garment setting part 5 may be moved to a position where the iron storage part 7 stored therein the iron 6 is covered with the garment setting part 5.

COPYRIGHT: (C)1993,JPO&Japio

----- KWIC -----

Current US Cross Reference Classification - CCXR
(2):

38/107